

幼穂形成期・出穂期は平年より1日程度早い見込み！

～ 穂肥を適期に施用し品質向上を図りましょう！ ～

1. JA えちご中越 ながおか地区管内の生育状況（6月20日現在）

- ①コシヒカリの生育は移植時期による生育差が大きい。草丈は長く、茎数は少ない。
- ②こしいぶきの生育は早く、草丈は長い。茎数も多く、葉色は並。

	コシヒカリ				こしいぶき			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)
宮内地域	42	302	8.1	40.7	42	409	9.4	45.3
長岡地域	42	344	8.3	40.2	45	445	9.3	42.2
上川西地域	43	358	8.3	41.6	48	493	9.9	43.8
日越地域	40	322	8.3	39.0	45	488	9.1	42.8
長岡地区全体	42	335	8.3	40.2	45	457	9.4	43.4
生育目標 (6/20)	35	360	8.2	39.0	34	400	8.4	42.0
目標比較 (%±)	120	93	0.1	1.2	132	114	1.0	1.4
前年 (R4)	35	372	8.0	40.4	36	466	8.8	43.8

2. 出穂期の予想と穂肥時期の目安

(長岡・平場地域 6月21日現在 長岡農業普及指導センター)

	予想		穂肥時期の目安 (出穂前日数)		けい酸入りエコ・5-5専用穂肥	
	幼穂形成期	出穂期	1回目	2回目		
コシヒカリ	7月10日	8月2日	7月15～18日 (18～15)	7月23日 (10)	上限施用量 18kg/10a	
こしいぶき	6月29日	7月22日	6月29日 (23)	7月8日 (14)		
もち	こがねもち	7月4日	7月27日	7月9～12日 (18～15)	7月17日 (10)	上限施用量 20kg/10a
	わたぼうし	6月27日	7月20日	6月28～30日 (22～20)	7月8～10日 (12～10)	
酒米	五百万石	6月25日	7月18日	6月28日 (20)	7月6日 (12)	上限施用量 18kg/10a
業務用・加工用	ゆきん子舞	6月29日	7月22日	6月27～29日 (25～23)	7月8日 (14)	尿素 1回目:4.5～5.5kg 2回目:4.5～5.5kg 合計 9～11kg/10a
	ゆきみらい	6月24日	7月17日	6月24日 (23)	7月4日 (13)	

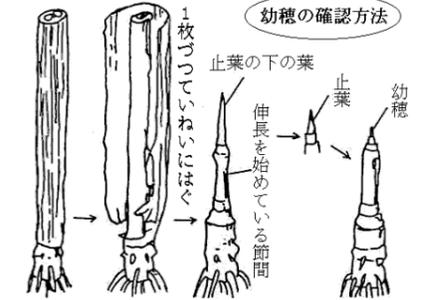
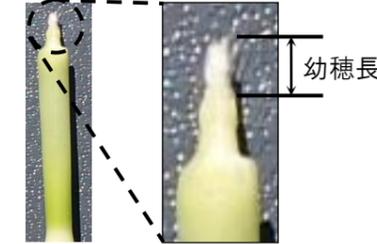
※早生品種は5月1日～5日稚苗移植、中晩生品種は5月10日～15日稚苗移植で予想しています。田植えが5日前後すると、出穂は2日程度前後します。今後の気象条件で予想は変わります。「越淡麗」「あきだわら」「新之助」については後日発表の予定です。

3. 幼穂長からの穂肥時期の把握について

幼穂形成期の把握方法 … 幼穂長が0.1cmの頃が幼穂形成期です。(出穂23日前頃)
幼穂形成期や発育ステージの把握は、ほ場による生育差が大きいので、出穂予想を参考にしつつ、必ず幼穂長を確認し、適期に穂肥を施用してください。

幼穂長	出穂前	生育ステージ	穂肥時期
1～2mm	23～25日	幼穂形成期	こしいぶき等早生品種の1回目
1cm程度	約18日	花粉母細胞分化期	コシヒカリ等中生品種の1回目
10cm程度	約10日	減数分裂期	2回目の穂肥時期

カッターによる幼穂確認



◎茎の基部をカッターで切るか、手で剥いて幼穂を確認してください。

4. 「こしいぶき」の穂肥について

- ◎1回目穂肥は遅れない！ ◎2回目は確実に実施する！
- ◎葉色 (SPAD値36、葉色カラースケール4.5) を維持！ (8/10頃まで)
- 【出穂期が7月22日の場合】

<こしいぶき穂肥施用時期>

- 1回目：6月29日頃 (出穂23日前)
- 2回目：7月8日頃 (出穂14日前)

<けい酸入りエコ・5-5専用穂肥施用量>

- 1回目 8kg/10a
- 2回目 10kg/10a

① 砂質土壌や低地力ほ場などで毎年生育量が小さく、後期栄養が不足するほ場では「みらい有機831」又は「味好2号」を施用し、収量・品質の向上を図りましょう。
※「味好2号」は速効性肥料ではありませんので、地力の低いほ場では出穂前30～25日頃に施用してください。

② 「けい酸入りエコ・5-5専用元肥」を散布量上限 (30kg/10a) まで施用していない場合には、エコ5-5運動特例的対応により基肥施用量上限の化学合成窒素 (N) 残量相当を、穂肥2回目施用時に追加散布しましょう。
※施用量については、必ず営農センターにご相談下さい。



③ 1・2回目穂肥を散布しても葉色が薄い場合

有機質100%肥料「フェザー-MAX」又は「みらい有機」を追加施用

⇒ 出穂5日前に15kg/10a

<けい酸入りエコ・5-5専用穂肥施用量>

<有機質100%肥料>

- 1回目 8kg/10a + 「みらい有機831」又は味好2号 20kg/10a
- 2回目 10kg/10a + (基肥上限量の窒素(N)残量相当) + 「フェザー-MAX」 15kg/10a

※大豆後・基盤整備後 (盛土部) ほ場では、今後、窒素発現が予想されるため、原則、無施用が減肥するようにしましょう。

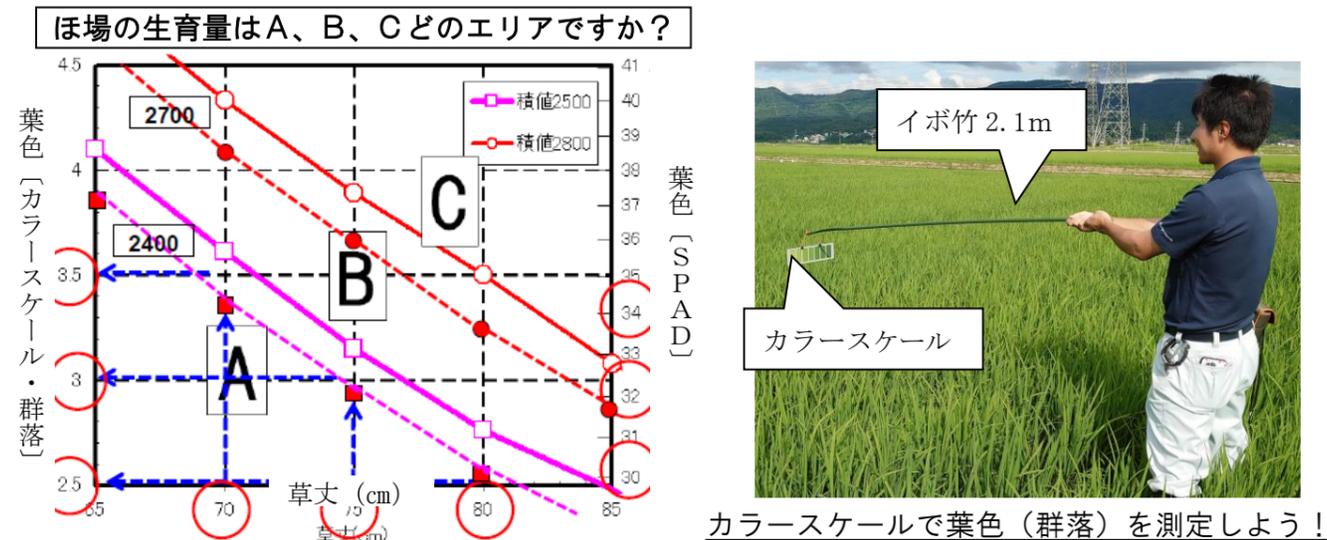
5. 「コシヒカリ」の穂肥について

(1) コシヒカリ幼穂形成期（出穂23日前頃）の生育量（草丈と葉色の積値）による穂肥診断

① コシヒカリ 1 回目穂肥施用の診断とめやす

生育量 早見グラフ のエリア	幼穂伸長期間の気象予報別の穂肥対応		
	低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
A	○△倒伏が心配される場合は、穂肥時期を遅らせ、量を控えめに！	◎出穂18日前に基準量（けい酸入りエコ・5-5専用穂肥8kg/10a）	◎出穂18日前に基準量（けい酸入りエコ・5-5専用穂肥8kg/10a）
B	×施用しない	×施用しない	○出穂15日前に基準量
C	×施用しない	×施用しない	×△施用しない。ただし、異常高温の場合は、早急に基準量

② 幼穂形成期の生育量（草丈と葉色の積値）早見グラフ



※出穂期にかけて低温・少照・多雨が見込まれる場合は、草丈が伸長して倒伏が大きくなる場合があることから、1回目穂肥時期を遅らせたり施用量を減じたり調整して下さい。

※高温・多照・少雨が予想される場合は、葉色がめやすよりやや濃い場合でも、出穂15日前に施用時期を遅らせて、**8kg/10a施用**して下さい。

(2) 低地力ほ場における穂肥対応

①砂質土壌や低地力ほ場などで例年倒伏がなく後期栄養が不足するほ場では、けい酸入りエコ・5-5専用穂肥に加え、「味好2号」を幼穂形成期頃（出穂23日前頃）に20kg/10aを追加施用し、品質向上を図りましょう。

②「けい酸入りエコ・5-5専用元肥」を散布量上限（30kg/10a）まで施用していない場合には、エコ5-5運動特例的対応により基肥施用量上限の化学合成窒素（N）残量相当を、穂肥2回目施用時に追加散布しましょう。

※施用量については、必ず営農センターにご相談下さい。

③1・2回目穂肥を散布しても葉色が淡い場合

有機質100%肥料「フェザーMAX」または「みらい有機831」を出穂5日前迄に15kg/10aを追加施用しましょう。



(3) 倒伏防止に向けた高地力、排水不良ほ場における穂肥対応

地力が高く、排水が悪い、例年倒伏が心配されるほ場（重粘土壌等）では、1回目穂肥をパスするか、又は、上記のめやすより3～5日遅く（出穂15～12日前頃）1回目穂肥を施用することにより、倒伏防止を図りましょう。

(4) コシヒカリの2回目穂肥（出穂前10日頃）の施用

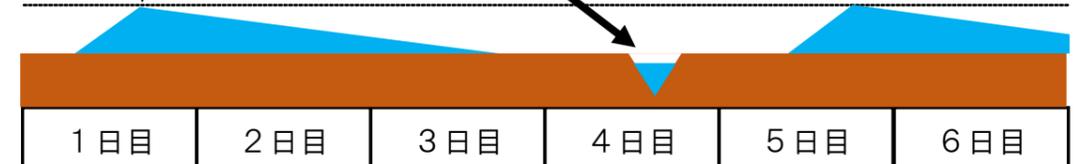
- ①2回目穂肥は、後期栄養を維持するため、専用穂肥10kg/10aを確実に施用しましょう。
- ②高温条件下では、2回目の穂肥は確実に施用し、葉色の維持、登熟向上を図り、品質低下を防止しましょう。
- ③出穂前10日頃の穂肥施用は、稈長の伸長に影響しないので、1回目の穂肥を施用できなかった場合においても、品質低下防止の観点から**確実に施用**しましょう。
- ④1回目穂肥が出穂前18日より遅れた場合は、1回目穂肥の7日後に施用しましょう

6. 中干し終了後の飽水管理

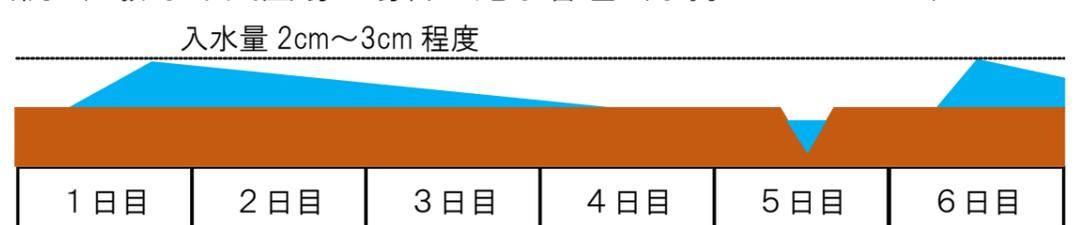
中干しは、出穂の1ヵ月前までには終了し、飽水管理へ移行してください。



(例1) 圃場の水持ち2～3日程度の場合の飽水管理
入水量 3cm



(例2) 排水不良圃場の場合の飽水管理（水持ち：5日以上）
入水量 2cm～3cm程度



※日数はあくまで目安です。地域の実情にあった水管理をお願いします。
※かけ流し等は行わず、限りある用水を地域全体に行き渡るようにしましょう。

<注意> 1回のかん水で3日以上湛水するような水持ちの良いほ場(水はけが悪い)では、**湛水状態にせず、3日間湛水・3日間落水を繰り返す間断かん水とし、根の活力維持につとめてください。**

☆間断かん水☆ 湛水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理法。(例：3湛3落等)